

研究所だより

第458号
2023年 6月 2日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ でんでん むしむし かたつむり

お前のあたまは どこにある

つのおせ やりおせ あたまおせ ”

『かたつむり』 1911(明治44)年 童謡・唱歌



～アジサイの花が色鮮やかに咲いています！～

気象庁は、5月18日(木)に沖縄、奄美地方が梅雨入りしたとみられると発表しました。沖縄地方の梅雨入りは平年より8日遅く、昨年より14日遅くなっているようです。29日には四国地方も梅雨入りが発表されました。昨年より1週間早い梅雨入りだそうです。

6月の暦の上では、6日が実を殻のついた芒(のぎ)のある麦や稲など穂の出る穀物の刈り取りや田植えを始める時期と言われる「芒種」と21日が1年で昼が最も長く、夜が短い「夏至」となります。

6月には各学校でプール掃除やプール開きが行われ、本格的に水泳の授業が始まります。これから暑くなってくると川や海へ行く機会が増えてきます。「自分の命は自分で守る」を合い言葉に水難事故防止に努めていただきたいと思います。

いま必要な校内研修2

「指導と評価」5月号より

〔効果的な校内研修のあり方を探る〕

校内研究を主軸にした学校経営

(上級教育カウンセラー・ガイダンスカウンセラー元東京都小学校学級経営研究会会長)

やと れいこ
谷戸 玲子さん

1 まず笑顔で元気な先生であるために

若手教諭の多様な発想が生かされる学校。授業研究が日常である学校。アクティブラーニングを進め、先輩が研究してきた体験談を語り合うゆとりのある職員室。理想の学校を描いてはみるが、現実には、指導を頼りにアクティブラーニングとはほど遠い教え込みの授業になってしまう毎日。

人間力、教師力をどのように伸ばし、令和の教育をどう実現していくか。教師の仕事は研究・改善・研修を繰り返すクリエイティブな仕事である。その生きがいは、自分の実践が子どもの成長や変容に影響をもったという実感から生まれる。能動的に動いている人が、子どもの主体性や輝く目を発見できる。受け身か能動的かの違いを見分けることができる資質・能力はどのように身に付くのか。

2 生産的活動の根源は洞察力

いま教師に求められる資質・能力は何か。主体性、協働できる力、自らを振り返ることができる力、柔軟性等である。つまり、子どもたちに主体的・対話的で深い学びを体験させる教師は、自らその学びを実現している。



教師がいちいち号令をかけなくても、自ら問題を解決していく力を授業の中でどのように付けていくか。

まず、管理職が実態を把握するところから始まる。教育観について、実態からどのような研修が必要かを考える。

教師が発問を繰り返し、「子どもが教師の答えを探している」授業を観察する。子どもが自ら考える力は、「教師の答えを探す動き」ではない。依存的な人間ではなく、自分から問題に挑み、問題を解決し、その達成に満足感を覚える人間を育てようとしているかどうか授業観察をする時の評価観点になる。

教師の姿勢が受け身で依存的であれば、その価値観で子どもは育つ。教師の姿勢が能動的で自ら考える場をつくらうとしていけば、子どもに思考力が育つ。管理職の洞察力、教師の洞察力、子どもの洞察力を磨くことはつながっているのである。洞察力を働かせて、「いま目指すところはここだ」「一番大事なことはこれだ」と考えることができれば、あとはひとりでも進んでいく。

研修の軸は、洞察力を磨くことである。洞察力が付くと、問題意識が持てる。内発的動機付けになっていけば、ものごとが主体的に進む。振り返る時も、児童理解をする時も、常に洞察力が必要である。洞察力は、本質をつかむ力である。教材は、常に日常に転がっている。



3 一石三鳥の校内研修

◆講師の先生の軸が同じ方向であること

前年度のうちに、教師が自ら研究的に取り組む教科・領域を選ぶ。学校全体で話し合っ、《道徳》《体育》《国語》の3つに絞った。講師の先生は、自校の実態に合わせてお話をくださる方を管理職がお願いした。

学校の実態は、授業研究を深めたことのない若手教員が半数いるということ、日常の授業について教材研究が追いつかず、主体的・対話的な授業とは何かを深め合う時間の捻出が難しいことである。

そこで、時間を有効に使えるようにし、自分の授業力を高めることができる研修として、年間1人1本は研究授業を自分発信で行うこととした。

3人の講師の先生は、その教科・領域だけでなく、どの教科でも必要なカウンセリングマインドを大切にすること、ちょっとした工夫で、子ども自らが動こうとすることをご教示いただける方である。ワークショップ型研修をしていただけたので、楽しく、自ら考えて、ワークを体験しながら、能動的に考える体質ができればと考えている。

道徳の授業研究は、道徳観、深く言えば、教育観につながる研修になる。

心遣いは見えるが、心は見えない。その見えない心を扱う道徳は、行動を教え込むのではない、という理念が身に付く。「どのような教材を選ぶか」「自分の学級の実態に合わせた発問構成はどうするか」自ら考える姿勢が身に付く。教材研究のプロセスを学校全体で共通のスタイルでできることから、チームで高め合うことができた。道徳授業地区公開講座も同じ講師の先生にお願いし、保護者参加型の授業をしていただいた。この講座で保護者に、子どもの心を育てることについての学校の基本姿勢を伝えることができた。



体育は、生涯自分の体と向き合う基本姿勢を育て、運動嫌いな子どもにも体を動かす喜びを味わわせることが大事であると思える研修となった。研究授業をつくることから、目的は何かをブラさずに話し合い、準備した2年目の若手教員がモデル授業をすることができ、できるようになったことを実感した。

運動の日常化をねらい、運動委員会主催のスポーツチャレンジデーの取組を行ったり、ちょっとした体幹運動を準備運動に取り入れたり、工夫を体験した教師が、イメージをふくらませることができるようになった。

国語は、言語活動、生きる上での根本である。研究授業の時に改めて教材を読み解く力を付けたいと思った教員は、学ぶ意欲が高いと言える。集団で協議する時にも個が育つ。子どもの授業と同じである。特に今回は学習指導要領に戻る動きを学んだ。常に大きなねらいを確認し、何のためのペア学習なのか、どのようなノート作りが大切なのか、自ら読む力とは何か、疑問を持ち、実践して、振り返る動きが自然に出てきた。知識も必要で、知ることから、疑問が生まれ、実践してみても、子どもの思考が見えるようになり、「何のために」と軸を考える体質ができてきた。多少だが、子どもの読み解く力も伸びた。

◆Q-U研修を学級経営力の軸が同じ方向であること

Q-Uを分析し、アセスメントをチームで共有し、管理職も入ってコンサルテーションをした。その際、教育カウンセリング協会の講師にスーパーバイザーとしてご指導いただいた。専門的な見方と多様な視点、いじめのサイン、孤立感のサイン、意欲の問題等、その学級の実態とともに、学級の中での居場所づくり、要支援群の個別対応の仕方、学級全体での取組等、チームで話し合うことで、担任も勇気付けられ、意欲がわくと同時に、問題もはっきり見える。課題解決に向けて取り組んだら、成果が見えた例が出てきた。さらに次の課題に向かおうとする意欲が高まる。まさに教員のアクティブラーニングである。Q-Uを活用する方法がわかることで面談、SGE、学級通信などの方法も合わせて、児童理解の力を高めることができた。児童相互の理解も深まり、一石二鳥であった。

◆保護者対応の研修は日常の実践

最後に、保護者への対応力を付ける研修にも触れておきたい。これこそケースバイケースである。基本は傾聴。しかし、聴いてばかりでは解決の糸口がつかめない事例も多い。



教育カウンセリングの資質を持った管理職やカウンセラー、養護教諭などがいたら、担任と同席する。そして、傾聴してリレーションができ、次にどうしようかと動き出す様子をキャッチしてから、アドバイスをすると有効であることを、その場で共に考えながら学ぶことが一番力になっている。机上の空論では多様な問題に対応できる力にはならない。

リレーションづくりは、モデルを見て、自らを振り返ることで、より効果的なリレーション形成につながると考えている。

いま求められる校内研修とは、一石二鳥が五鳥くらいになるよう仕組むマネジメント力を管理職がどれだけ楽しんで発揮するかにかかっている。

＝研究協力校（三崎小学校・清水中学校）の紹介＝

今回は「三崎小学校」の研究テーマ・概要について紹介します。（申請書より）

○研究テーマ・研究の概要

1. 研究テーマ

地域の特色を生かし『地域との連携・協働』による自立をめざした児童の育成

2. 研究の概要

第3期高知県教育振興計画の6つの取り組みの基本方針の一つである、「地域との連携・協働」及び土佐清水市教育振興基本計画Ⅲの6つの取り組みの基本方針の一つである、「地域との連携・協働」を推進する為、総合的な学習の時間や社会科等の時間を中心としてふるさと学習に取り組み地域の方との豊かな出会いを通して地域の方の温かさや自然を再発見し、児童の自立を目指す。

『目標』

- ① 地域の人達との交流や自然の中での体験活動を通して、歴史や課題を理解し故郷を愛する心情を育てる。
- ② 「山・川・海の学習」を通して地域や文化について学び理解を深める。
- ③ 森林の持つ意義と大切さを学び、これからの環境について考える。

『活動計画』

- ・校内及び周辺環境整備（上級生・地域の方々・保護者）
- ・シュノーケリング体験（サンゴ生態学習）・川の生物調査・間伐体験・グラスボート乗船・ガイド体験等。学校周辺の海・川・山の学習の一環として体験学習をし、地域の豊かな自然と生き物に触れ環境を大切にしようとする意識化（高）
- ・潮だまりの観察・貝の学習・海草の学習・ビーチコーミング・サンゴの学習（中）
- ・夏休み期間中に各地区会で子どもと大人による川清掃等
- ・海洋館見学：海洋生物 生態を学習（全）
- ・田植え（中・高）、稲刈り（中・高）、精米 餅つき大会（全）を通して、食物の恵みや山と川のつながり学習
- ・フィールドワーク…ビニールハウス、土佐食、ケンピ工場等地域の工場や施設の見学や石碑の学習
- ・ディサービスへの訪問。（1年、2年、5年、6年）
- ・高齢者の方への絵手紙の発送（全）

お知らせ

＜市民図書館より新しいDVDの紹介＞

市民図書館では、今年度も平和学習用として下記のDVDを新規購入し、貸し出しを予定しています。詳細については7月号で紹介させていただきます。

〔問い合わせ：市民図書館 82-4151〕

1. 「パパママバイバイ」（アニメ）〔再生時間70分〕
2. 「キムの十字架」（アニメ）〔再生時間80分〕
3. 「白い町ヒロシマ」〔再生時間105分〕
4. 「ヒロシマナガサキ最後の二重被爆者」〔再生時間90分〕

